

研究開発成果実装支援プログラム 評価報告書

平成 23 年 6 月 6 日

研究開発成果実装支援プログラム PO・AD 委員会

1. 課題

名称：投薬ミス・薬害防止のための、臨床事例を中核とした医療従事者向け情報交換・研修システムの実装

期間：平成 20 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

実装責任者：特定非営利活動法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター

理事・センター長 澤田 康文

2. 総合評価

十分な成果が得られたと評価された。入会者目標達成は目前であり、会員獲得と財政基盤の確立という継続的自立の目途も立っている。全地域から広く入会しており、本システムの全国的な普及可能性が十分ある。今後、大学の新規システムの研究開発への積極的な協力を通して、実装を視野に入れた大学との連携が進んでいる。薬剤師向けのサイトとしては、ユニークであり、多くの医薬品に関するヒヤリハットの貴重なデータが集まってきており、また活用されている。提供されるサービス内容の精度向上と事業継続に必要な財政基盤整備を同時に進めた点が評価できる。サービス提供の内容が更に充実するに従い、医療に従事する人々の関心も更に高まり、頼られるシステムとなり得る。特に今後、ジェネリック医薬品が増える中で、投薬ミスを防止するなど大切な機能提供する可能性がある。

3. 各項目評価

(ア) 実装支援の目標の達成状況

概ね達成されたと評価された。

①会員の獲得： アイフィス、アイメディス¹の両プログラムとも、関連する業界メーカーリングリストへの掲載等を活用し、目標会員数達成率が9割を超えた点が評価できる。法人会員は目標の半数に満たなかったが、今後の継続的な展開いかんによって増加するものと想定され、その努力を期待する。

②財務基盤： 事業を継続して実施する上では、財務基盤の構築は欠かせない。事業継続に必要な財務を正確に把握した上で目標を定め、さらに、個人の有料会員数の目標数を上回った点が評価できる。

¹ 東京大学大学院 薬学研究系研究科 医薬品情報学講座が構築した、“薬剤師のためのインターネットによる薬剤師間情報交換・研修システム” (internet based Pharmacist’s Information Sharing System: i-PHISS、通称、アイフィス)、“インターネットによる医薬品情報提供サイト”の「医師のための薬の時間」 (internet based Medical Doctor's Information Sharing System: i-MEDISS、通称、アイメディス)

③各種有料サービスの導入・評価：健康食品に関する情報提供の有料サービス利用者が183名と良好であった点が評価できる。また、当初の計画には盛り込まれていなかった新規サービスをいくつか開始した点も評価できる。

(イ) 実装支援終了後の実装の継続及び発展の可能性

大いに可能性ありと評価された。研修教材提供のためのシステム基盤となるライブラリ化も進められており、新しいサービスを提供するなどの発展可能性が期待される。財務基盤が整備されたことから、事業の継続は大いに期待できる。今後、新しいチャネルを使用しての広報活動や新人薬剤師等の積極的加入のためのしくみ、法人会員数の拡大に期待したい。民間企業の立場からいうと法人会員の会費一口50万円というのは決して安いとはいえ、継続にあたっては、投資するに値するサービス・情報を享受できるのかが大きなポイントとなると思われる。

(ウ) 組織体制は適正であったか

適正であったと評価された。医薬品ライフタイムマネジメントセンターの創設時の目的の通り、大学の研究成果を社会に還元し、さらに、人材育成に取り組んでいる点が評価できる。また在宅勤務者の事業参画体制の確立は働き方の多様化の観点からも重要で評価できる。在宅サポーター6名、非常勤サポートスタッフ2名の体制を確立するなど、スタッフ養成と運営上の課題解決に取り組んでいることから、組織体制の確立に努力している。今後も事業が継続され、また、さらなる新規事業開発のため、専任の薬剤師、事務局員等のスタッフ養成に尽力することが望まれる。大学にとどまらず、社会浸透を容易にするために、組織として開業薬剤師との連携ももっと必要と思われる。

4. その他特記事項

今後会員数を増やすことにより、情報提供される事例も増え、便益性は高まると思われる。このため、医師・薬剤師に当該システムをいかに周知させていくか、それが最も重要であろう。単に投稿された情報を検索できるだけでなく、それら情報を整理・総合・解析することによりどれだけ付加価値をつけられるかが重要である。今後この努力を続けるべく体制も組み立てられているように見られ、一層の努力を期待したい。

医薬品ライフタイムマネジメントセンターが携わっている「育薬セミナー」は、女性の育児休暇からの社会復帰を支援するセミナーとして、少子高齢化というわが国最大の問題にも大いに貢献しており、今後の事業拡大に期待したい。